

流行に備えて

感染症対策と予防接種

感染症を予防することは、自分を守るだけでなく、家族や周囲にいる人の健康を守ることもつながります。

【問い合わせ】健康づくり課（☎41-3608）

基本的な感染症対策を

継続して行いましょう

インフルエンザが全国的に流行しています。例年、寒い季節になると流行が拡大する傾向にあるため、毎日できる感染症対策を継続して行いましょう。

また、インフルエンザに限らず、基本的な対策で多くの感染症のリスクを減らすことができます。例えば、▼こまめな手洗い・うがい ▼手指の消毒 ▼マスクの着用、咳をするときは袖で口を覆うなどの咳エチケット



▼十分な睡眠やバランスのよい食事 ▼適度な換気ーなど、日常生活の中での心掛けが大切です。

防ぐことが難しい感染症には、ワクチン接種が効果的です

基本的な感染対策はとても大切ですが、全ての感染症を防ぐことはできません。「ワクチン接種」によって予防することができるといえます。

特に、感染力が強く社会全体でまん延を予防する必要がある感染症や、重症化すると命にかかわる感染症などは、「定期接種」としてワクチン接種の対象者が決められ

ています。

定期接種になっているワクチンは、接種を希望する人の負担を減らすため、接種費用の自己負担が無料または一部のみとなっています。

接種時期を逃さず、

ワクチンを接種しましょう

ワクチンの種類によって、接種できる期間、接種回数、接種間隔が決められています。

また、免疫効果の持続期間やより強い免疫を定着させるため、ワクチンごとに標準的な接種年齢が決まっています。市では、最も効果的な時期に接種できるよう、接種の案内を個別郵送または手渡し

でお知らせしています。

※年齢ごとの定期接種と予診票の送付時期については、ページ下部でご確認ください

任意接種のワクチンって？

「任意接種」は、接種を希望する人（または保護者）と、接種医の相談の上で行われる予防接種のことです。

任意接種の場合、接種費用は全額自己負担が基本ですが、任意接種のワクチンについても市が費用助成をしているものがあります。 ※詳しくは、健康づくり課（☎41-3608）にお問い合わせください

こども・妊婦のインフルエンザ予防接種の費用助成

市では、中学生までの子どもおよび妊婦のインフルエンザ予防接種費用の一部（1回当たり上限3千円）を助成します。助成を受けるためには、事前に申請が必要です。

なお、今季は感染拡大の状況を踏まえ、予定を前倒して接種を実施しています。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

【助成期限】12月31日（木）
【申請期限】▶オンライン…11月27日（金）▶郵送・持参…12月4日（金）



妊婦用



中学生までの子ども用

妊婦



【予診票】
母子健康手帳交付時に手渡し
【接種内容】
RSウイルス感染症

13歳（中学1年生） ※女子のみ



【予診票】
5月頃に郵送
【接種内容】
HPV（ヒトパピローマウイルス）感染症（2回または3回）

12歳（小学6年生）



【予診票】
6月頃に郵送
【接種内容】
二種混合（ジフテリア・破傷風）2期

1歳



【予診票】
育児学級で手渡し
【接種内容】
▶麻しん（はしか）・風しん1期▶小児の肺炎球菌感染症（追加）▶水痘（水ぼうそう・2回）▶五種混合1期（追加）

0歳（乳児）



【予診票】
赤ちゃん訪問で手渡し
【接種内容】
▶ロタウイルス感染症（2回または3回）▶B型肝炎（3回）▶小児の肺炎球菌感染症（初回3回）▶五種混合（ジフテリア・破傷風・百日せき・ポリオ・ヒブ感染症）1期（3回）▶結核（BCG）

高齢者

带状疱疹の対象者は65歳～100歳の間の5歳刻みの人です（65、70、75、80、85、90、95、100歳）

【予診票】
50歳の誕生日の翌月に郵送（52歳以上の人には令和6年7月に郵送済み）

※50歳以上で上記の年齢以外の方は任意接種ですが、費用助成があります

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症の対象者は65歳以上の人です



【予診票】
9月頃に郵送

高齢者の肺炎球菌感染症の対象者は65歳の人です



【予診票】
65歳の誕生日の翌月に郵送

9歳（小学3年生）



【予診票】
誕生月の翌月に郵送
【接種内容】
日本脳炎2期

6歳（年長児）



【予診票】
5月頃に郵送
【接種内容】
麻しん（はしか）・風しん2期

4歳



【予診票】
誕生月に郵送
【接種内容】
日本脳炎1期（追加）

3歳



【予診票】
誕生月に郵送
【接種内容】
日本脳炎1期（2回）

●年齢ごとの定期接種と予診票の送付時期